

詩編 第70編 1節

「神よ。私を救い出してください。主よ。急いで私を助けてください。」

とっさの危機、迫り来る危機、危機の真ん中に立つときどうなるのだろうか。万事休すの局面でどうするだろうか。そこに立つ者にはなにもない。いかなる手段も残されていない。立ちすくむだけだ。危機的状況に圧殺されるしかない。あたかも、そこに誰も、何も無かったかのように静寂が戻り、覆いかぶさる。それで良しとするだろうか。そのようなことで良いだろうか。断末魔の叫びで終わってよいだろうか。

だから、叫ぶ。神よ、と。だから、危機の真ん中から御名を叫び願う。私を救い出してください。他の誰でもなく、神よ、と叫ぶこの私を救い出してください。窮地にあっても、いや窮地だから願うお方がいる。ただ、叫ぶのではない。救い出してください、と叫ぶ。危機に在る者を救うちからあるお方を知る者が叫ぶ。

さらに、叫ぶ。救ってくださる確信からの叫びであろうか。それとも、私の救いを確しかにしたい叫びであろうか。いずれであっても叫ぶお方がいるのはよい。それも、急いで私を助けてください、と懇願できるお方がいるのはよい。そのお方を、神よ、と呼び。そのお方を、主よ、と呼べる。どのような危機に在っても救い、助けてくださる主を呼ぶ。

2022年12月21日